

法話

弥陀の本願に全てを委ねた人  
蓮如上人



東海教区 員弁組 浄光寺  
石本龍憲

◆深いことを、広く伝えた蓮如上人

蓮如上人は、親鸞聖人から教えて八代目のご門主さままで、本願寺を現代のような大教団に仕上げてくださいました。私たちは「中興の祖」とあがめています。その蓮如上人のことを、『蓮如』の原作者である五木寛之さんが、法然聖人、親鸞聖人、そして蓮如上人のことを、次のように言っておられます。法然聖人は、「大事なことを、やさしく」行うことを教えた人、そして法然聖人のお弟子である親鸞聖人は、「やさしいことを、深く」きわめようとした人であった。これに対して、法然聖人・親鸞聖人に帰依した蓮如上人は、「深いことを、広く」伝えようと、渾身の力をこめて生き抜いた人であったと。

◆蓮如上人の伝道の原点

蓮如上人の伝道の原点は、「聖人一流の御勸化のおもむき」を、わかりやすく・広く民衆へ伝えることで、生涯伝道の旅をされたお方でした。上人の足には、わらじの跡がくつきり付いていたと言われています。父存如上人と北陸から関東へは、二度赴かれていますし、近畿・北陸へと各地を精力的に奔走しておられます。

ところで、山科本願寺の中宗堂に安置されている蓮如上人像は、数ある上人像と少し違う所があります。蓮如上人五十四歳の時の自作と言われ、右ほほに傷があるのです。それは、若い頃自分の足で各地を歩き回った苦勞を忘れないため、またこれを後世の人々に伝えるために、木像を彫る時に、わざわざ履いていたわらじで傷をつけたということです。

◆伝道の基本姿勢は「平座(ひらざ)」の精神

伝道される時の基本姿勢は、まずは、「自分自身を教化せよ」で、み教えによって自分自身を革新してゆくことでした。その具体的なものとしてあげられるのが、「平座」の精神です。本願寺の建物にあった上下段を取り払って平座に

えたことです。そして、如来さまの前ではみな平等で、同じみ親をいただく兄弟であり、同じ道を歩む同行である、それは親鸞聖人の「御同朋御同行」を具現化することでした。

ご門徒に接するときのエピソードとして次のようなことがあったそうです。蓮如上人のお話を聞いていても退屈する人がいたようで、そのときには、お弟子に謡曲の一節を詠わせて、みんなのこころを引き立ててからお話を続けられたとのこと。長い話しはせずに、できるだけ短く肝要を話すように、お弟子の方々にも注意されました。当意即妙というか実に見事な座談で、相手の心の一番深い所に浄土真宗のご法義を伝えていかれました。

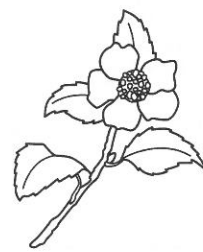
◆み教えをわかりやすく・広く民衆へ伝える

蓮如上人の伝道の基本姿勢は、親鸞聖人の忠実な理解者として、弥陀の本願に全てを委ねたものでした。『御文章』に「聖人一流のご勸化のおもむきは信心を以て本とせられ候」と、「信心」が一番大切であると示されています。また、「信心」というと、日本語のように思いますが、実は中国語なのです。インドのプラサーダということを中国語に訳したもので、インド・中国語としての意味に浄土真宗独特の意味が加わるから、複雑で難しくなるのです。それを、皆にわかりやすく伝えていかれたのです。

蓮如上人は、法然聖人や親鸞聖人の教えを受けて、信心を「たのむ」と言い表されました。それは、「よりのむなり」「よりのむなり」ということで、信頼してまかせることです。かつ「お願いする」ということではないのです。阿彌陀如来は、この私の本性を知り尽くし、「あなたを助ける親がおるぞ、私を頼りにし、まかせなさい」と喚んでいてくださいます。その喚び声にさまされて、「はい、おまかせします」とお任せするところが「信心」なのです。

阿彌陀如来のお働きにお任せしていくことで、如来のお働きの真つ只中であつたとの安心が与えられ、囚われや不安から解放されていくのです。

この度のご法要を機縁に、あらためて蓮如上人が表してくださった「御文章」などを通して、阿彌陀如来のお心をいただかせていただきましょう。



ご動座法要

蓮如上人ご誕生 600 年記念法要を 11 月 6 日、7 日に修行するに先立ち、中宗堂にご安置の蓮如上人の御木像を別院の本堂にご動座申し上げるご法要を今月 10 月 30 日 (金) 午前 10 時 30 分からお勤めいたします。

中宗堂において勤行ののち、関係者参列の中、上人像を中宗堂外陣の御輿に移し、担ぎ手により本堂正面へ移動。そのあと右余間御厨子に安置。そのあと勤行、焼香、御文章を拝読し、ご動座法要を終了します。

記念法要が終了した翌日 11 月 8 日 (日) 上人像を、本堂からもとの中宗堂に移し、全ての法要の円成となります。

「蓮如上人ご誕生 600 年記念法要」日程

【第 2 日目】11 月 7 日 (土) [前門様御登礼盤]

| 時間    | 内容                  | 場所     |
|-------|---------------------|--------|
| 10:30 | 《記念行事》<br>(子どもの集い)  | 多目的ホール |
| 11:30 | 《稚児行列》              | 伊勢講舎   |
| 12:30 | 《受付》<br>～参拝者入堂～     | 境内     |
| 13:15 | 《参拝者の集い》            | 本堂     |
| 14:00 | 《記念法要》<br>〔前門様御登礼盤〕 | 本堂     |
| 15:15 | 《記念行事》              | 本堂     |
| 16:30 | 《輪番挨拶》              | 本堂     |

【第 1 日目】11 月 6 日 (金) [御門主御親修]

| 時間    | 内容                 | 場所 |
|-------|--------------------|----|
| 12:30 | 《受付》<br>～参拝者入堂～    | 境内 |
| 13:15 | 《参拝者の集い》           | 本堂 |
| 14:00 | 《記念法要》<br>〔御門主御親修〕 | 本堂 |
| 15:15 | 《記念行事》             | 本堂 |
| 16:30 | 《輪番挨拶》             | 本堂 |

参拝者の集い

(構成内容)

① 記念布教

- 6 日: 本願寺派布教使 小向達也 師 (東海教区)
- 7 日: 本願寺派布教使 野瀬善隆 師 (滋賀教区)

② コーラス

- 6 日: 東海教区仏教婦人会
- 7 日: 滋賀教区寺族婦人会

③ 来賓挨拶

④ 法要ナレーション (朗読)

記念法要

- [第 1 日] 専如ご門主御親修 「ご親教」 専如ご門主
- [第 2 日] 即如前門様御導師 「ご法話」 即如前門様